

## 明治末期 浜通りの郷土誌

当館では平成 27(2015)年度から今年度にかけて、所蔵する浜通りの『郷土誌』17 点のデジタル化を行いました。これらの郷土誌は、明治 44(1911)年の福島県訓令に基づいて、各小学校の学区ごとにまとめられたものです。明治期の地域の様子を伺い知ることができる貴重な資料です。



『郷土誌 金房村』表紙

デジタル化した郷土誌一覧		
新地村	駒嶺村	大野村
八幡村	山上村	玉野村
日立木村	磯部村	八澤村
上真野村	鹿島町	飯曾石橋村
新館大須村	高平村	大甕村
太田村	小高町	金房村

※山上と玉野は2村で1冊

明治 44 年、内務省の指示を受けて、福島県において大規模な郡誌・郷土誌の編纂が行われました。福島県は訓令第 34 号(明治 44 年 6 月 30 日)をもって、県内の小学校、町村役場、郡市役所に「郷土誌編纂要項」を提示し、これにより多くの郡誌が刊行されました。県内の各小学校においても、学区内の郷土誌を記録することが義務付けられており、この編纂要項に基づいて郷土誌の編纂が行われました。

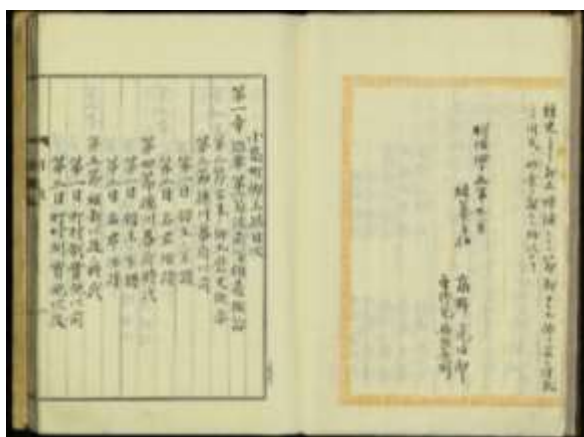
当館で所蔵する上の『郷土誌』は、明治 45(1912)年頃に浜通りにおいて作成されたものです。いずれも明治 44 年の訓令に基づいて編纂されており、巻頭の「緒言」には、「本誌ハ明治四十四年六月福島縣訓令第三十四號ニ基キテ之ヲ編纂セリ」と記載が見られます。また、基本的に 18 章の概ね共通した章立てにより構成されており、一定の様式に沿って作られていることが分かります。

第一章 沿革	第二章 地勢	第三章 気象
第四章 生物	第五章 戸口	第六章 官公署
第七章 学事	第八章 社寺及宗教	第九章 兵事
第十章 衛生	第十一章 警察	第十二章 風俗習慣
第十三章 経済	第十四章 生業	第十五章 交通
第十六章 口碑伝説	第十七章 人物	第十八章 名勝旧蹟

体裁は B5 よりやや大きく (195×270mm)、用紙に筆書きされています。巻頭に地域の全体図を示した絵図が折り込まれているものもあります。前述の章立てに従い、歴史、地理、自然、人口、教育、風俗や方言、農業・水産・蚕業・工業・商業といった各産業、交通、史跡名勝などの内容が記述されています。人口等の各種統計は、直近 5 年から 10 年間程の年次統計が、所定と思われる様式に書き込まれています。

郷土誌は、基礎資料として市町村史作成の際に引用されているものも多くあります。新地村、駒嶺村の郷土誌は『新地町史 資料編』（新地町史編さん委員会／編 新地町教育委員会 1982）に、新館大須村、飯曾石橋村の郷土誌は『飯館村史 第1巻』（飯館村史編纂委員会／編 飯館村 1979）に翻刻も収録されています。明治末期におけるその地域の地誌が記録されており、今日でも活用できる部分も多い資料ではないでしょうか。

デジタル化した資料は、CD-ROMに保存しており、館内のパソコンで閲覧していただける他、館外への貸出も可能です。ぜひご利用ください。



『郷土誌 小高町』緒言・目次



『郷土誌 上真野村』上真野村全図

#### <参考文献>

『福島県史 第4巻』 福島県 1971

『福島県史 第21巻』 福島県 1967

『日本歴史地名大系 第7巻 福島県の地名』 平凡社 1993

『福島県教育史 第3巻 現代編』 福島県教育センター／編集 福島県教育委員会 1973

『福島県教育史編さん資料 第5集 教育関係例規大正時代および昭和16年まで』 福島県教育委員会 1971

p261-272 「郷土誌編纂要項 昭和七年一月十四日福島県訓令第二号」

『新地町史 資料編』 新地町史編さん委員会／編 新地町教育委員会 1982

『飯館村史 第1巻 通史』 飯館村史編纂委員会／編 飯館村 1979

『双葉町史 第1巻 通史編』 双葉町史編さん委員会／編 双葉町 1995

『福島市史 別巻7 福島の文化』 福島市史編纂委員会／編 岩瀬書店 1989

「福島県立図書館所蔵貴重郷土資料探照 18 浜通りの郡村誌・郡誌・郷土誌」(『福島県郷土資料情報』No. 56, 2016. 3 p1)

※明治初期からの福島県における皇国地誌、郡誌・郡村誌、郷土誌について詳しくはこちらもご参照ください

(地域資料チーム 板津恵子)